

第3章

計画の目標

何を実現するための計画なのか

1 都市像 どのような刈谷市をめざすのか

本市は、「グローバルなものづくりのまち」です。様々な国の外国人が働き、暮らしています。また、私たちの暮らしは、資源や食品などを外国から輸入することで成り立っています。

一方、本市の日本人市民の大半は、外国人市民と関わりがありません。私たちの暮らしのありようが関係する貧困や環境問題などの地球規模の課題に関心のある市民は多くありません。

そのため「日本人市民」と「外国人市民」、「刈谷市民」と「世界の人々」、「私たちの暮らし」と「地球規模の課題」など、それぞれのつながりを理解したり、関係性を築いたり、課題解決に向けて協働したりすることができる刈谷をめざし、次のような10年後の都市像を設定します。

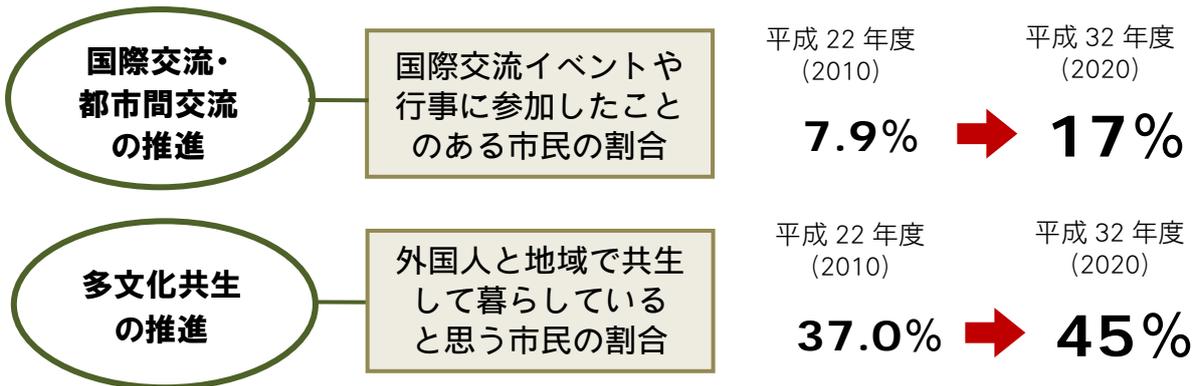
私と世界がつながるまち 刈谷

2 目標指標 どのような指標で表すのか

本計画の目標指標は、『第7次刈谷市総合計画』で掲げた「国際交流・都市間交流の推進」「多文化共生の推進」に関わる次の目標指標とします。

また、本計画策定時に行った外国人市民アンケート調査項目のうち目標の達成に関わる設問については計画改定時にもアンケート調査を行い、その変化について点検・評価するものとします。

● 目標指標 ●

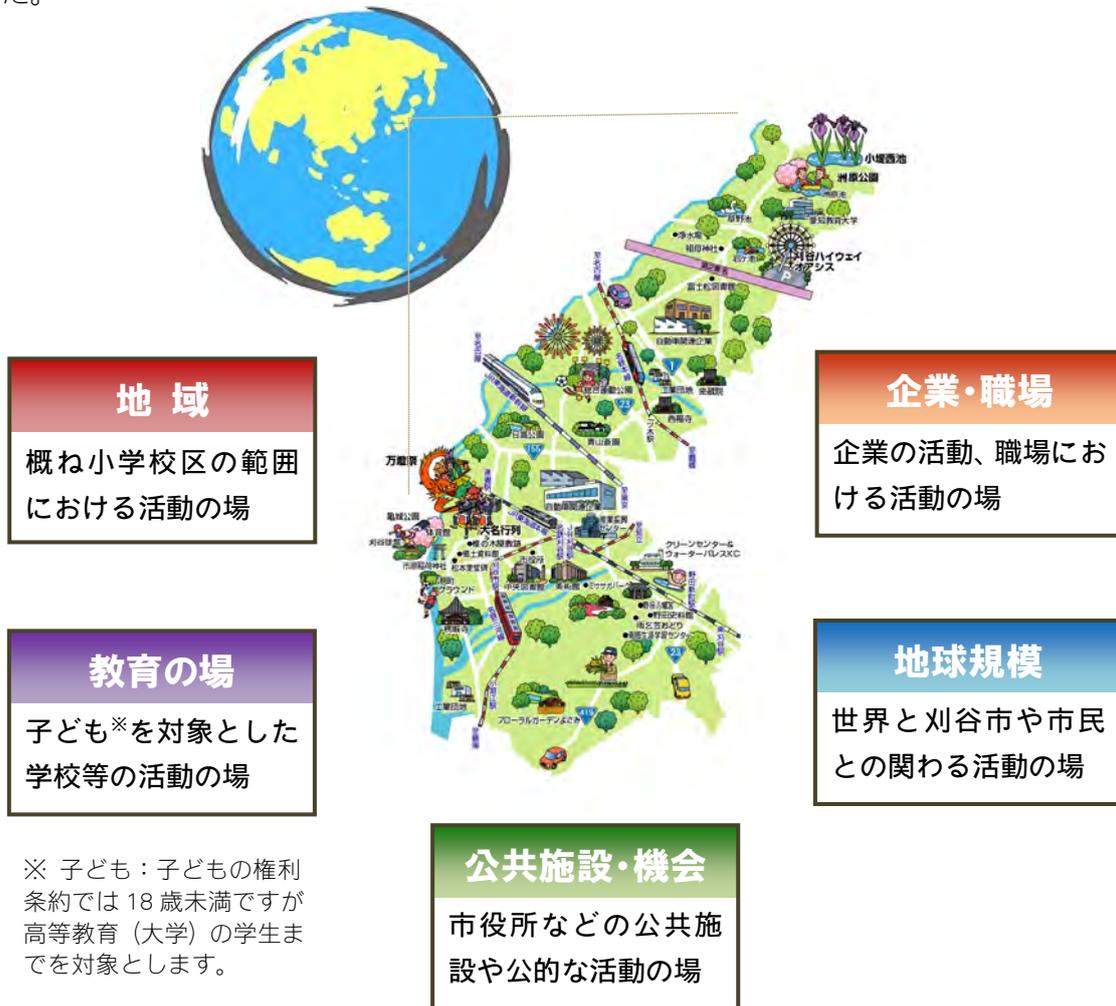


ビジョン

3 どのようなまちの風景をめざすのか

① 場面の設定

国際化・多文化共生をテーマにした共存・協働のまちづくりが行われているまちの風景を表す場面として、「地域」「教育の場」「公共施設・機会」「企業・職場」「地球規模」の5つを設定しました。



② 将来こうしたい！まちの風景

刈谷市の国際化・多文化共生に関する「将来こうしたい！まちの風景」を、5つの場面ごとに関係主体間で合意した共通の目標として定め、3～4つの文章とイラストで表しました。

● 将来こうしたい！「地域」の風景 ●

【地域活動への参加】

誰もが※、地域に関心を持ち、文化継承、交流、改善、発展のための活動を行ったり、参加したりしている。



【関心・尊重・互助】

誰もが※、地域の住民に関心を持ち、それぞれの文化を大切にし、認めあい、助けあっている。



【家庭同士のつながり】

国籍等の異なる家庭同士のつながりが強くなっている。



【出会い・交流・共有】

人々が交流する場があり、様々な国の文化と出会い、多様な情報を提供しあっている。



※「誰もが」というのは、すべての“市民”＝「市内に住所を有し、通勤し、または通学する者その他まちづくりに関わる者」を意味しますが、文脈としては特に、「国籍や文化に関わらず誰もが」という意図を持っています。

● 将来こうしたい！「教育の場」の風景 ●

【教育の機会と支援】

すべての子ども*が、等しく義務教育を受けられ、卒業後に向けた支援体制が整っている。



【ありのままの受容】

すべての子ども*が、いじめや差別なく、ありのままの自分を受け容れられている。



【多文化の体験】

すべての子どもが、様々な国の文化にふれられ、外国人のともだちをつくる機会がある。



【関わる力の育成】

すべての子ども*が、地域や世界の共通の課題を共に考え、解決していくための力が育まれている。

※「すべての子ども」というのは、大学生までを想定したすべての子どもを意味しますが、文脈としては特に、「外国にルーツを持つ子どもをはじめとしたすべての子ども」という意図を持っています。

● 将来こうしたい！「公共施設・機会」の風景 ●

【公共サービスの充実】

誰もが※、言葉の壁なく、公共サービスをスムーズに受けられる。



【多文化理解と参加の機会】

様々な国の人々や文化と関わり、尊重し、共生するための市民参加や協働の機会が多様にある。



【拠点施設の活用】

国際化・多文化共生をすすめる拠点と、それを生かす人材とプログラムがある。



【災害時・緊急時の対応】

誰もが※、言葉の壁なく、災害時・緊急時にも、安心して暮らせるようになっている。

※「誰もが」というのは、すべての“市民”＝「市内に住所を有し、通勤し、または通学する者その他まちづくりに関わる者」を意味しますが、文脈としては特に、「国籍や文化に関わらず誰もが」という意図を持っています。

● 将来こうしたい！「企業・職場」の風景 ●

【企業の社会貢献】

多くの企業が、地域の国際化や多文化共生に貢献し、働く人が地域や世界とつながっていると実感している。



【機会平等と多様性の職場】

教育や昇格の機会が等しくあり、国際性や多様性に富んだ適材適所がすすんでいる。

【働く場や機会】

誰もが※、その能力を発揮し働く場や機会がある。



※「誰もが」というのは、すべての“市民”＝「市内に住所を有し、通勤し、または通学する者その他まちづくりに関わる者」を意味しますが、文脈としては特に、「国籍や文化に関わらず誰もが」という意図を持っています。

● 将来こうしたい！「地球規模」の風景 ●

【地球市民意識】

誰もが、国籍等にとらわれず、同じ地球市民という意識で、相互に認めあっている。



【国際協力】

貧困や環境など世界の共通の課題に対し、刈谷の持つ人的・経済的・技術的な支援や行動によって、人々の自立と共生に貢献している。

【国際交流】

世界の多様性を活かすあう、人や情報のつながりや都市間の交流・共生がすすんでいる。